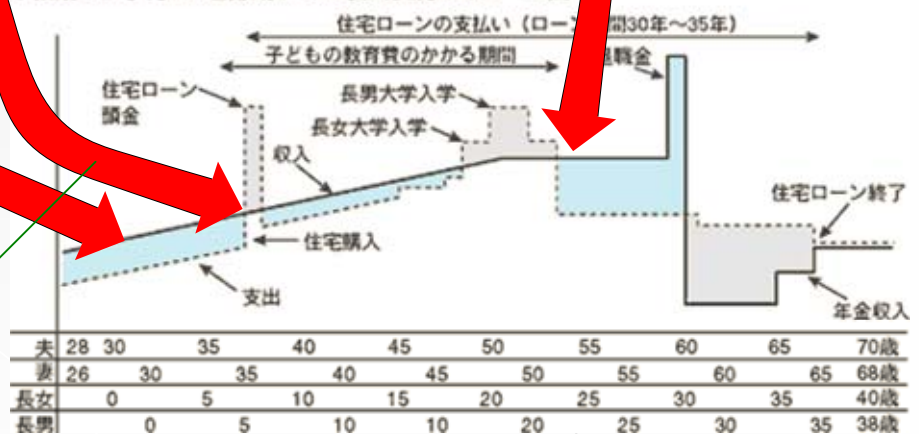


私たちが不安に思う資金・・・



●結婚から子育て、老齢期までの収入状況のイメージ図



<http://www.jafp.or.jp/kurashi/yutaka/q01.html>

■ポイント■
いつまで先送りしますか？

■教育資金■

資金計画を明らかにすることにより明確な目標を持つ
→こども保険
→大型保険
金銭教育も教育

■住宅資金■

確実に次世代に残せる住宅
→次世代へ・・・
教育資金のピークが来る前に住宅資金をやっつける
おおきな保険加入になる

■老後資金■

老後が心配
→若い世代
個人年金無駄
*その前に片づける問題
老後資金を知ることにより安心する

何年後、何のために、どのくらい必要かの目標を明確化

将来を予測することは難しいのですが、お金の面だけを考えると、「3年後に子どもの大学入学資金として150万円が必要」、「5年後に家のリフォーム費用として400万円を用意したい」と、家族の夢プラン（ライフイベント）の時期やその目的、必要資金を明確にすることで、ファイナンシャル・プランニングが可能になります。

ファイナンシャル・プランニングでは、今後10年から15年くらいのライフイベントに必要な資金や収入、支出の見通しを立て、収支状況や貯蓄残高などの傾向を見ます。収支が継続的な赤字や貯蓄残高がマイナスになる危険性がある場合は、支出項目やライフイベント費用を見直して改善を図ることになります。

もう一つ将来設計で重要なのが、病気やけが、障害、死亡、失業、老齢時等の生活保障です。日本には、これらのさまざまなリスクをカバーする5つの社会保険制度（年金・医療・介護・労災・雇用保険）があります。

たとえば、国民年金や厚生（共済）年金は、老齢時の年金支給だけでなく、障害を持ったり、世帯主が万一死亡したりした場合、障害年金や遺族年金という保険制度を用意しています。将来の保障設計を立てる場合は、これらの公的保障をベースに、不足分を民間の保障商品でカバーすることを考えます。



Copyright (c) 株式会社 F.M.S.